

小・中・都立学校

平成 15 年 度

# 教育研究員研究報告書

学 校 図 書 館

東京都教職員研修センター

## 研 究 員 名 簿

A 分 科 会	板橋区立德丸小学校	古川 恵子
	府中市立住吉小学校	高橋 真純
	町田市立町田第四小学校	松井なおみ
	世田谷区立山崎中学校	宮沢 佳子
	日野市立三沢中学校	小林 展子
	羽村市立羽村第二中学校	櫻沢由美子
B 分 科 会	新宿区立余丁町小学校	東 みどり
	北区立浮間小学校	小池 夏子
	東久留米市立神宝小学校	山根 恵実
	江戸川区立南葛西第二中学校	岩泉美智子
	都立北多摩高等学校	河村 太亮
C 分 科 会	世田谷区立用賀小学校	田中 康子
	墨田区立二葉小学校	舟山由美子
	昭島市立光華小学校	杉原 道子
	江戸川区立船堀小学校	齋藤 有子
	杉並区立松渓中学校	伊藤美佐子
	都立八王子盲学校	福元 太郎

全体世話人

副世話人

分科会世話人

担当 東京都教職員研修センター 指導主事 鶴巻 景子

# 目 次

## 研究主題及び全体構想

1	研究主題	2
2	研究主題設定の理由	2
3	目指す児童・生徒像	2
4	研究仮説	2
5	研究の基本的な考え方	3
6	研究内容及び方法	3
7	研究構想図	4

## 研究内容

1	学校図書館の計画的な利用	
(1)	学校図書館利用計画の作成	5
(2)	学習指導における学校図書館の資料・情報活用の工夫	5
(3)	実証授業 「平和を築く」「地雷と聖火」(国語科 中学校第3学年)	8
2	公共図書館や異校種等との連携による読書活動の推進	
(1)	読書活動の推進と連携の意義	11
(2)	現在実践されている各校種と公共図書館やボランティアとの連携	12
(3)	連携の効果的な進め方と配慮事項	13
(4)	実証授業「お話のプレゼントをしよう」(総合的な学習の時間 小学校第4学年)	14
(5)	実証事例「ボランティア(読み聞かせ)講習会」(図書委員会 中学校)	16
3	一人一人の読書意欲を高める活動の工夫	
(1)	読書意欲を高める多様な読書活動の工夫	17
(2)	読書意欲を高める継続的な指導の工夫	18
(3)	実証授業 「楽しいね!本のせかい」(国語科 小学校第2学年)	19

資 料	23
-----	----

研究の成果と課題	24
----------	----

## 研究主題および全体構想

### 1 研究主題 「学校図書館の活用と読書活動の推進」

#### 2 研究主題設定の理由

「子どもの読書活動」は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものである。(\*1) 小学校、中学校、高等学校、盲・ろう・養護学校の学習指導要領では、学校図書館を計画的に利用し、その機能の活用を図り、児童・生徒の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実することが示されている。平成14年8月「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」においても、学校における読書活動の推進が国によって示された。さらに、平成15年3月「東京都子ども読書活動推進計画」により、読書活動の推進における学校の役割、学校における読書活動の推進、学校図書館の役割、学校図書館の計画的な整備・充実が具体的に示されている。(P23資料参照)

都内2261校対象にした「児童・生徒の読書の状況及び学校における読書活動に関する調査」によると、学校での児童・生徒の読書の現状は、1か月間の未読者率が小学校6年生12.8%、中学校1年生28.9%、高校1年生で54.7%と割合が増えているが、逆に本を読んでいる高校生では1ヶ月に3冊以上を読んでいる。また、「読書が好き」と答えた児童・生徒は小学校1年生74.4%、中学校1年生27.6%と減るが、中学校2年生を境に増加に転じており、読む生徒と読まない生徒のかたよりがみられる。学校図書館の利用状況は、小学校ではどの学年でも50%を越えているのに対し、中学校30.3%、高等学校17.7%と減少していく。さらに、読書活動として読み聞かせや学級活動での読書会などを全校で実施している学校は、あまり多くない状況である。このことから、児童・生徒への適切な学校図書利用指導と読書活動が十分なされていないことが、児童・生徒の読書意欲が継続されない原因の一つであると考えられる。(\*2) OECDの15歳児を対象とした読解力調査(2000年)では、OECD参加国平均31.7%に対し、日本では55%の生徒が「趣味で読書をしない」と回答しており、参加国32か国の中で最も割合が高くなっている。こうした結果は、生きる力の基盤となる言葉や心の育成に大きく影響してくると思う。

こうした現状を踏まえ、子どもが読書に親しむ態度を育成し、読書習慣を形成するために、「読書センター」「学習・情報センター」として学校図書館を計画的に利用した主体的・意欲的な学習活動や子どもの成長に応じた読書活動を充実するための方法を研究していくことが、今、強く求められている。本研究では、生涯にわたり、その時期に適した読書経験を積み重ね、読書を通じて豊かに生きる力を身に付けていくために、特に学校図書館の利用推進を図り、多くの人との連携を深め、一人一人の読書意欲を高める読書活動の推進が必要であると考え、上記のような研究主題を設定した。

\*1 子どもの読書活動の推進に関する法律(平成13年法律第154号)第2条参照

\*2 児童・生徒の読書の状況及び学校における読書活動に関する調査(平成15年6月 指導部調査より)

#### 3 目指す児童・生徒像

- ・興味をもった事柄を適切な資料を選んで自ら進んで調べ、  
その資料を十分に活用できる児童・生徒
- ・公共図書館を利用したり、地域の人と交流したりすることによって  
読書活動を広げようとする児童・生徒
- ・多様な読書活動を通して本に親しみ、自ら読書の幅を広げようとする児童・生徒

#### 4 研究仮説

学校図書館の利用計画を作成し、計画的に学校図書館を活用しつつ、異校種や公共図書館との連携・交流を効果的に図りながら、一人一人の児童・生徒の読書に対する意欲を喚起する活動を工夫すれば、読書への興味・関心を高め、読書活動を推進できる。

#### 5 研究内容の基本的な考え方

##### (1) 読書活動の意義と学校図書館

読書は、第一に、文字言語を理解することによって、周囲の現実中存在する様々な情報を獲得し、知識を拡大する営みである。第二に、「ことば」を読み味わいつつ、新たな「ことば」を獲得する過程を通して、感受性を高め、表現力を生み出す言語活動の源泉となる。第三に読書を通して、広い視野で物事をとらえ、教養を深め、豊かな人間性をはぐくむことができる。

本研究は、このように読書の意義をおさえた上で、学校図書館の活用と読書活動の推進について考えた。

##### (2) 学校図書館の活用

学校図書館は、児童・生徒にとって「読書センター」と「学習・情報センター」としての二つの機能がある。「読書センター」は、児童・生徒の読書活動を支えるものであり、「学習・情報センター」は、調べる学習活動を支えるものである。どちらも読書活動を推進する上で大切な機能である。学校図書館を活用するために、「東京都子ども読書活動推進計画」では、「読書指導の充実」と「各教科、特別活動、総合的な学習の時間等における読書活動の充実」の二つに着目している。

本研究では、学校図書館の利用として、特に「学習・情報センター」としての機能に視点を当て「教科等における読書活動の充実」について研究を進めた。児童・生徒の「学び」を豊かにしていくためには、学習活動における学校図書館の資料・情報の活用について、小学校から高等学校までの見通しをもった計画的な指導が必要である。その中で学校図書館利用計画を十分に活用することで、必要な資料を収集し、判断し、活用していく「資料活用能力」が高められ、学校図書館が「学習・情報センター」として機能し、目的をもった読書活動や学習活動が充実すると考える。

##### (3) 読書活動の推進

公共図書館や異校種と連携・交流をすることによって、子どもはより広い分野の図書に接し、読書の幅や興味を広げることができる。それは、読書活動の推進だけにとどまらず、他者への思いやりの心や社会性を身に付けることにもつながる。こうした読書活動は、本を通して子どもの世界を大きく広げ生涯にわたる読書の力を培うことになると考える。

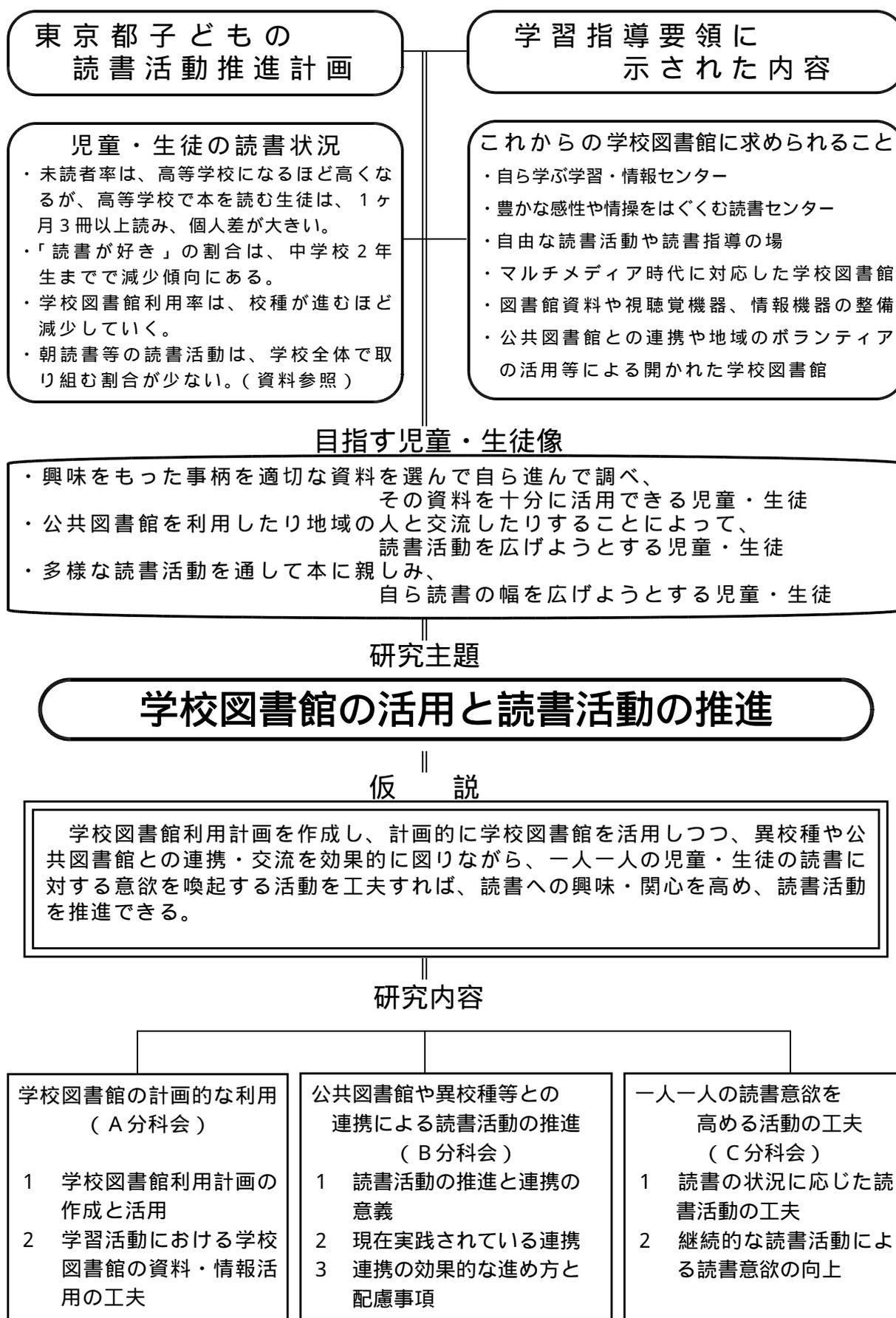
また、読書活動は、読むことの楽しさを共有したり、新たな読書の世界を広げていく活動の工夫や取り組みが大切である。そうした活動は、教科等の学習活動だけでなくあらゆる教育活動の中で、一人一人の子どもの発達段階や読書の状況に応じて柔軟に対応し、多様な読書活動を工夫しながら継続的に指導していくことが大切であると考えられる。

#### 6 研究内容と方法

以上の基本的な考え方を踏まえ、研究内容を次の三点にしぼり、各分科会に分かれて実証授業を通じた実践的研究を行った。

- ・学校図書館の計画的な利用
- ・公共図書館や異校種等との連携による読書活動の推進
- ・一人一人の読書意欲を高める活動の工夫

## 7 研究構想図



## 研究内容

### 1 学校図書館の計画的な利用

#### (1) 学校図書館利用計画の作成

児童・生徒が主体的に学校図書館を日常の学習で活用できるようにするためには、計画的・継続的な指導が必要である。そこで、小学校・中学校・高等学校が連携した学校図書館利用計画を、「図書館の利用」( )・「資料・情報の活用」( )・「読書活動」( )の三観点で作成した。(表1)

作表にあたり、小学校は低学年・中学年・高学年と二学年ずつに分け、繰り返し指導することが有効と考えた。中学校は各学年の発達段階が異なるので、一学年ずつ作成した。高等学校は様々なカリキュラムが組まれているため、三学年を通して指導する内容とした。

「図書館の利用」( )の指導では、「図書館の仕組みを理解し積極的に利用できること」を中心とし、学校図書館と公共図書館の使い方や本の分類・検索方法などを知ることで利用の定着を図るようにした。「資料・情報の活用」( )では、「目的に合わせて資料・情報を収集し効果的に利用できること」と定義し、小学校では様々な辞書・事典・図鑑類のほか新聞やパンフレット・インターネットなどの基本的な利用の仕方と図書資料や必要なページを探し利用することを繰り返し指導することをねらいとした。また、中学校・高等学校では、目的にあった辞書・事典を選んだり、生徒自身の能力に応じて多面的な情報収集・選択をしたりすることをねらいとした。さらに「読書活動」( )では、「本の世界にひたり視野を広げる読書」と学習内容を関連させて「目的や意図に応じて読書し、自分の考えを深め向上させること」をねらいとして作成した。

これらの三観点が、必要に応じてそれぞれの教科や学習場面でかかわり合い指導されることで、児童・生徒は日常的に学校図書館を活用するようになると考えた。

#### (2) 学習活動における学校図書館の資料・情報活用の工夫

本研究では、特に、学校図書館を利用して資料・情報活用能力を高めるため、具体的に各教科等の指導の中に組み込んだ利用計画を作成した。

小学校低学年では、図書館に親しみをもたせながら、図書館の仕組みを指導し、国語科や生活科で「本で調べる」ことの意味と楽しさを知り、中学年では、辞典や図鑑・地図・新聞の使い方を学び、各教科や総合的な学習の時間で資料・情報を活用する力を付ける。また、インターネットも情報の一つとして利用する価値を知る。高学年では、各教科・特別活動・総合的な学習の時間の中で、自分で課題を設定し解決する場面が増えてくることから、学習に必要な資料・情報を収集・活用し、自らの考えをもち、情報活用能力を付ける。中学校では、小学校で付いた力を基に、自分の課題に関する資料・情報を収集して読み比べたり、調査目的と照らし合わせて資料を選択し活用するを通して、自らの考えを深めたり広げたりして、情報活用能力を養うこととした。

そして、これらのことを各教科・特別活動・総合的な学習の時間等で指導することによって資料・情報活用能力が高まると考え、利用計画に基づく教科等での授業の実践を行った。

授業では、特に、キーワード検索等、資料収集の方法を工夫したり、情報カードを作成して得た情報を関連させて整理したり、調べる目的をもたせるために単元や図書資料の開発を行ったりしていくことにした。これは、工夫して調べる、多面的な情報を整理する、調べる目的をもつことなどを相互に関連させることで、情報活用能力が高まると考えたからである。

表1 学校図書館利用計画

図書館の利用

資料・情報の活用

読書活動

学期	小学校 低学年		小学校 中学年		小学校 高学年	
	単元等	図書館の活用	単元等	図書館の活用	単元等	図書館の活用
1 学期	読み聞かせを聞く (国語) (特活)	学校図書館の使い方と約束 (本をもとへもどす本の貸出と返却)	楽しい読書詩を読む (国語) (特活)	学校図書館の使い方と約束(貸出・返却)同じ作者の本や、興味ある事柄の本を見付け利用する 詩の本を読む	本との出会い (国語) (特活)	図書館の使い方の確認本の並び方と十進分類を知る(1000区分)作家やテーマを決めて読む 全校に向けて、本の紹介をする(委員会活動)
	昔話を読む(国語)	昔話を読む	地域を知りごみのゆくえ(社会) (特活)	本のならび方と十進分類(0~9)を知り、目的の本を見付け活用する コンピュータを使い地域のホームページを利用する 公共図書館を利用する	移動教室に向けて (社会) (理科) (特活) (総合)	ガイドブック、パンフレット、図鑑、地図帳、写真資、図書資料で調べる インターネットで調べる
	春みつけ (虫・野菜花の本) (生活)	図鑑や生き物の本で調べる				
	言葉あそび・言葉の辞典 (国語)	言葉遊びを調べやさしい言葉の辞典で調べる	季節の生き物(昆虫・植物)月と星 (理科)	インターネットで調べる 図鑑で調べる (目次や索引の利用)	本の紹介 (国語)	書名検索と著者名検索で本を探す 作家やテーマを決めて読む 伝記を読む
			国語辞典 漢字辞典	辞典の構成や引き方を知り、利用する	調べ学習 (社会) (理科) (総合)	百科事典、人名事典、年鑑、図鑑、地図帳、年表の使い方を知る 新聞で調べる 図書資料で調べる インターネットで調べる (博物館・記念館) 調べる内容に関連した本を読む
	本の紹介 (国語)	いろいろな絵本・物語を読む	本の紹介 (国語)	著者名・書名で調べ、本を見付ける 世界の話、民話を読む シリーズ本を読む 本の帯やポスターで読書紹介する		
2 学期	おはなし大すき (国語) (特活)	本のならび方と十進分類を知る 絵本、昔話、物語、生き物の本を読む すきな本を紹介する 詩の本を読む	戦争の話 詩を読む (国語)	戦争、平和の本を読む 詩を読む	以下の内容は、各教科等で年間を通して、継続的に指導する。 1学期 産業、歴史、天気、動植物の体 2学期 産業、歴史、政治、環境 3学期 産業、政治、環境、世界と日本	
	夏みつけ 秋みつけ (生活)	季節の植物や昆虫の本で調べる 図鑑や生き物の本で調べる(夏野菜・秋の草花や木の実の本・昆虫の本)	新聞を作ろう (国語) (社会) (総合)	新聞、パンフレットを利用する (見学新聞、まとめパンフレット、本の紹介新聞)		
	いろいろな乗り物 (国語)	いろいろな乗り物について調べる 図鑑や乗り物の本で調べる	昔のあそびくらしのうつりかわり (社会) (特活)	調べたい本の分類を知り調べる(100区分) 公共図書館を利用する 郷土資料を調べる	ことばの研究 (国語) (総合)	国語辞典や漢字辞典を利用することわざ辞典、方言辞典、歳時記、外来語、類義語辞典の使い方を知る 地図を利用する 詩集や短歌、俳句の本を読む いろいろな地域や国の本を読む
	昔あそび (生活)	遊びの本の場所を知る 昔あそびの本で調べる	季節の生き物 昆虫や動物 (理科)	百科事典で調べる (目次・索引) 昆虫、動物の本で調べる		
		心と体を調べる (国語) (保健)	科学の本で調べる			
3 学期	動物はかせになる (国語)	図鑑や生き物の本で調べる	点字・手話を知る (国語) (総合)	本のつくりを知る (大型絵本、布絵本、しかけ絵本、小型絵本) 点字、手話の本で調べる	発表しよう (国語) (社会) (理科) (総合)	百科事典、人名事典、図鑑、年鑑等を利用して調べる 新聞で調べる インターネットで調べる 作家やテーマを決めて読書し、自分の考えを発表する
	本は友だち (国語)	自分の気に入った本を探す 絵本、物語のいろいろな種類の本を読んで紹介する	本の世界を広げる (国語)	冒険物語、長編を読む 読書カードを作る		

	中学校1年		中学校2年		中学校3年		高等学校	
	単元等	図書館の活用	単元等	図書館の活用	単元等	図書館の活用		
1 学期	図書館案内 (国語・特活)	学校図書館や公共図書館のマナー、約束事を知って利用する 十進法による本の並び方を知る。 コンピュータを利用した図書館資料の探し方を学習する 興味のある本を選び、読書に親しむ	短歌 (国語)	歌集や短歌の本を読む 短歌の本に親しむ	修学旅行 (特活)	学校図書館の使い方を確認する ガイドブック、自然や歴史的建造物に関する資料、時刻表を活用する	教科別 オリ エン テー ション	図書館の意義を認識し、学校図書館の設備や本の配置、利用できるサービスの種類について理解し、主体的に利用する 学校図書館のレファレンスの利用方法を知る
	辞典の使い方を知る (国語英語)	国語辞典、漢和辞典、英和辞典、和英辞典の使い方を知る	世界の国々 (社会)	地理の並び方と十進分類を知る 年鑑、地図、地名辞典、百科事典で調べる 公共図書館でレファレンスサービスを利用する	俳句 (国語)	歳時記、俳句鑑賞辞典を利用する 俳句の本に親しむ		
	植物 (理科)	植物の本、図鑑、百科事典等を利用する	読書感想文を書こう(国語)	ブックリストを基にブックトークを聞く	豊かな暮らしと社会(社会)	十進分類法と本の並び方を知る 統計資料や年鑑を利用する インターネット検索を活用する		
	読書感想文を書こう(国語)	ブックリストを基にブックトークを聞く			天体 (理科)	星や宇宙に関する写真を活用する		
2 学期	自分の一冊を紹介 (国語)	紹介された本を読んでみる	自分の一冊を紹介 (国語)	紹介された本を読んでみる	パネルディスカッション (国語)	公共図書館の使い方や本の並び方を理解する レファレンスを活用する 百科事典、新聞雑誌、参考図書から収集し、活用する インターネットを活用する	各教科指導 の中 での 内容 と 関 連 付 け て 指 導	各種図書館や文化施設の利用法を知り、積極的に活用する 様々な資料の利用法を理解し、主体的に活用する (図書、雑誌、新聞、参考図書、視聴覚資料等) 書誌、目録、索引、参考文献リストの利用法を理解し、情報検索に活用する インターネット検索を活用する 学ぶ意義を考える本にふれる 自己啓発の喜びをもたらす、読書領域を拡大する本にふれる 読書会を開き、自己の表現力を高め、他者との共感的理解を深める
	古典にふれる (国語)	古典入門の本や故事成語の本を利用する 易しい古典の本に親しむ	古典に親しむ (国語)	古典の随筆を読む 古典に親しむ	平和、国際社会 (国語・社会)	調査目的に合った資料を活用する 平和、人権、国際協力、社会、生き方を考える本に親しむ		
	身近な地域や都道府県 (社会)	地域や都道府県の本、百科事典、地名資料等を利用し、地域の特色を調べる インターネットでデータを収集する	動物の生活と種類 (理科)	理科の本の並び方を知る 図鑑、動物に関する本を利用する		古典 (国語)		
	大地 (理科)	化石、火山、地震の本や図鑑、百科事典を活用し、データを収集する インターネットでデータを収集する	日本の歴史上の人物(社会)	歴史の本の並び方を知る 人名辞典、年表を利用する	エネルギー(理科)	エネルギーの種類や発電に関する本を活用する 環境自然に関する本に親しむ		
3 学期	職業調べ (特活)	職業に関する本を利用し、身近な職業について調べる 進路や生き方に関する本を読む	意見文を書く (国語)	新聞、雑誌、国語辞典、百科事典を利用する	卒業に向けて (国語・特活)	公共図書館を積極的に活用する 様々な参考資料を活用して自分の考えを深める 感想文や本の紹介、ブックトークで一年間の読書活動を振り返る		
			天気 (理科)	天気の本を利用する				

### (3) 実証授業

単元 「平和を築く」「地雷と聖火」(国語科 中学校第3学年)

単元の目標

- [国語科] ・「平和を築く」と「地雷と聖火」から筆者の学んだことを読み取り、戦争や平和について考える。  
・広い範囲から情報を集めることで平和について考えを深め、主張文を書く。
- [利用指導] ・テーマにかかわる様々な読み物や資料を読み比べ、多面的な情報を得る。  
・テーマに沿った資料を収集し、調査目的と照らし合わせ、選択して活用する。

評価規準

[国語科]	関心・意欲・態度	・平和に関する情報を積極的に収集して活用し、主張文を書こうとする。
	書く	・様々な情報を踏まえて、論理的な根拠に基づいた主張文を書く。
	読む	・教科書本文を読み、平和についての筆者の願いや意見を理解する。 ・目的をもって様々な資料を読み比べ、的確に内容をとらえる。
	言語事項	・時事用語など多様な語句について理解を深め、自分の表現に役立てる。

- [利用指導]・テーマに沿って必要な情報を収集し、選択して活用する。

研究主題との関連

情報活用能力を高めるためには、調べる目的をもつこと、工夫して調べること、多面的な情報を整理することを、計画的、継続的に指導することが必要である。単に調べ学習の機会を増やすだけでは効果的とはいえない。自分はどんな情報を求めているのか、それはどんな資料にあてればよいのか、その資料をどのように読み取り、自分にとって価値のある情報を見付けていくか、見付けた情報をどのように整理し活用していくか、それぞれの活動を明確に意識させ、学習活動に繰り返し結び付けていかなければならないと考える。

本単元の学習においては、「平和」についての主張文を書くために多面的な情報を得ることが調べる目的である。抽象的なテーマを調べていく手だてとしては、より具体的なキーワードを提示し、その中から自分の主張文に関連するものを選択させる。これにより、調査目的を明確に意識しながら調べ学習に取り組むことができる。

工夫して調べるための手だてとしては様々な参考図書の整備を行い、資料収集の方法を指導する。まず、参考図書は百科事典や年鑑をはじめ、参考書や読み物資料など生徒が選んで活用できるように様々な資料を学校図書館を中心に公共図書館等と連携して整備する。中学3年という発達段階を考慮し、子ども向けの資料から一般向けの資料へと個々の生徒の情報活用能力が高められるように整備していく。一般向けの資料では、難解な語句や抽象的な概念を表す表現が多く用いられる。そのような資料を読み取る力を国語辞典の活用を習慣付けていくことで養う。次に、資料・情報収集の方法は、事柄の意味や原因、経過や結果を網羅して調べること、それに沿った資料を選択して情報を収集することを指導する。加えて、一つの事柄についても複数の資料を参照し、自分の求める情報に、よりふさわしいものを選択するように指導することで常に調査目的を意識して調べ学習を行うことができる。

また、多面的な情報を整理する方法として、情報カードを活用する。情報カードの使い方、見出しの付け方、必要事項の抜き出し方、キーワードを探して要約する方法、参考文献の書き方を指導する。複数の情報カードを調査目的に応じて取捨選択し、関連付けることで、収集した情報の価値が見極められ、活用できる。参考文献を書き記す習慣付けにより、情報の価値を見極めるだけでなく、著作権を理解し尊重する態度も養われると考える。

単元の指導計画（８時間）

次	時	学習活動	指導事項	評価規準
1	1 2	「平和を築く」と「地雷と聖火」を読み、筆者の体験や行動の意味、「戦争」と「平和」について、込められた主張を読み取る。		論理の展開をとらえ、内容をまとめさせるとともに、題名の表す意味を考えさせる。 筆者の「平和」への願いと主張を読み取っている。
2 ( 利用 指導 )	3	二つの単元を読み比べて「平和」について考えたことや疑問を書き、自分の課題を設定する。		二つの単元を読み比べ、視点の違いに気付かせ、テーマを設定させる。 「平和」についての考えや疑問を書き、自分の課題を設定している。
	4 5	課題解決のために、調べ学習のキーワードを選び、分担して調べる。 どのような資料を探せばいいか、見通しを立てて調べる。 ・言葉の意味、事柄の原因、経過や結果、現在の状況などを網羅するように収集する。 調べた内容は情報カードに書き、グループごとの台紙に内容ごとにまとめて貼る。		出典を明記した情報カードの書き方を確認し、利用する資料や調べ方について見通しを立てさせる。 個々の情報活用能力や読解力に応じて国語辞典、百科事典などの利用法を確認させ、資料の紹介や読み方や活用の仕方を個別指導する。(百科事典などの索引、目次の活用、表やグラフの読み方とその活用) 必要な資料を探すことができている。 必要事項を要約し、カードにまとめている。 情報を関連付けて整理している。
	3	6 7 8	調べて分かったことを報告する。 ・グループごとに短時間でスピーチする。 ・聞き手は自分の課題に関連しそうなものを選択してメモをとる。  調査用紙を基に「戦争と平和」に関して、自分の設定した課題について主張文を書く。(800字程度で、客観的事実に基づいた根拠のある文章にする。)  主張文を回し読みし、相互評価する。 ・よい評価は赤の付箋、改善点は青の付箋に書き、相手の主張文に貼って知らせる。	

<本単元で生徒が使用した図書資料>

- ・『ポブラディア』(H14年 ポブラ社)
- ・『よくわかる世界の紛争大図解1・2』(汐文社 安部直文)
- ・『世界大百科事典』(H1年 平凡社)
- ・『ユニセフと世界の子どもたち』(ユニセフ)
- ・『知恵蔵 朝日現代用語』(朝日新聞社)
- ・『情報・知識 i m i d a s 』(集英社)
- 現代用語の基礎知識(自由国民社)(H14年~H8年)
- ・『21世紀の平和を考えるシリーズ』(H15年 ポブラ社)
- ・『世界を救う国際組織シリーズ』(H8年 偕成社 マイケル・ポラード)
- ・『同時多発テロでわかる11のQ&A』(H14年 原書房 ミッチ・フランク)
- ・『シリーズ国連』(H5年 リブリオ出版)
- ・『世界のこどもたちのために(ユニセフ)』(ほるぷ出版)
- ・『21世紀をつくる国際組織事典』(H15年 岩崎書店) 他

## 指導の実際

### 〔資料を収集、選択〕



・百科事典や時事用語の解説書を見て、利用できそうな資料の見通しを立てる。

・複数の資料を読み比べ、キーワードについて、語句の意味や事柄の原因、経過や結果などを網羅する情報を得る。

### 〔生徒の振り返り〕

調べた本の中で大切なのは4冊。今回は大まかな資料に目を通して重要なことが載っている本とそうでない本に分けた。次回は重要ポイントを書き出してまとめる。

### 〔調査目的に合った必要な情報をまとめる〕



・調査目的を意識して、得た情報を取捨選択し、ポイントを絞って書き抜き、要約する。国語辞典を併用して、情報を解釈しながらまとめていく。

### 〔生徒の振り返り〕

「地雷によって苦しめられてる国々」についての資料を見つけ、前回と今回見つけた資料を合わせたまとめに取りかかれました。次回の課題は、なるべく要点を簡単にまとめることです。

### キーワード

地雷 カンボジア難民

アフガン戦争 国連 ユニセフ  
平和関連のNGO 民族間戦争や宗教戦争  
テロリズム 大量破壊兵器

### 情報カード

内容（意味・原因・状況・影響）

- 地雷は易しく作れるし、使用される一方で、除去が難しく、世界68ヶ国に11億1000万個以上残されていて、20人に一人の割合で女性や子どもなどの一般市民も亡くなっている。
- 今も地雷除去が行われているが、まだ、一部の地域しか取り除けていない。

（参考資料）「対人地雷カンボジア」毎日新聞社刊

・得た情報をカードに書き、内容ごとに分け、関連を考えながら整理していく。

### 〔主張文を書く〕

人々が平和に暮らすためには、私たち一人のしつかりとした自覚が大切です。（略）  
世界には、二千六百万人を越える難民がいます。難民とは戦争などによって家を追われた争いの犠牲者です。その難民の数は、世界の約0・5%に達します。この数字は一見すると少ないようですが、世界の約二百人に一人は難民ということになります。（略）  
このような小さな一歩でも世界中の人たちがやれば大きな一歩へと前進していきます。何か特別なことをするわけではなく、一人一人が戦争の悲惨さに対する自覚をもって行動すれば、世界は少しずつでも変わっていくと思います。

## 考 察

図書館の利用としては、中学校3年間で様々な参考図書の利用法を継続的に指導してきた結果、ほとんどの生徒が指導者の支援を得ずに必要な情報の載った資料を探せるようになってきている。一方、情報活用能力は読解力と関連が深く、生徒によっては資料を探せても内容が理解できないまま写しがちであった。そのため、国語科の学習において辞書を日常的に活用させ、キーワードを探して要点をまとめる学習を継続して行い、情報を活用できる力を育ててきた。その結果、本單元においては、難語句や抽象的な表現に対して辞書で意味を確認しながら読もうとする姿や、資料の表現を分かりやすく書き直しまとめようとする姿が多く見られた。資料を読み取れたことで、得た情報を関連付け、取捨選択しながら整理できるようになった。

このように教科と利用指導を関連させた学習の積み重ねにより、明確な目的意識をもって調べ、得た情報を活用して考えを深め、根拠のしっかりした主張文を書こうとする姿勢が身に付いた。利用指導の今後の課題としては、利用計画に基づいた蔵書等の整備が不可欠である。

## 2 公共図書館や異校種等との連携による読書活動の推進 - 本を通して広がる世界 -

### (1) 読書活動の推進と連携の意義

本研究では「連携」を「共通の目的をもって、お互いを高めるために物的なものや人的なものがつながり合い、協力し合って物事を行うこと」、「交流」を「子どもと子ども、大人と子どもなど、人と人とのつながりを大切にし、互いに行き来すること」と定義し、連携を「公共図書館との連携」「異校種との連携」「図書館ボランティア等との連携」の3つに分け、研究を進めることにした。

#### 公共図書館との連携

現在、総合的な学習の時間の調べ学習や児童・生徒の興味・関心に応じた学習活動を充実させていくためには、学校図書館の蔵書以上に広範囲な図書資料が必要になっている。公共図書館では、学習に役立つ本や資料、児童・生徒の興味・関心に応じた図書が多く蔵書されており、連携することによって、レファレンスや貸出等の協力をいただきながら多くの資料を使つての児童・生徒のニーズに応じた学習を充実させることができる。また、公共図書館で、より多くの本や役立つ資料を目にすることで、児童・生徒の本や資料を選ぶ力が育てられる。学校ではそうした選書された本のリストを自校の図書購入に役立たせることもできる。

さらに、公共図書館の司書から図書館の使い方や情報通信ネットワークを活用して図書情報を得るなどの指導をしてもらうことで、家庭や地域社会の中で読書に親しむ習慣形成を行っていくことができる。つまり、公共図書館の司書による読み聞かせ、お話し会等の場を設けることにより、本の楽しさを知る機会が増え、公共図書館の人とのつながりができることで、公共図書館が身近になり、児童・生徒の読書活動がより進むと考える。

#### 異校種との連携

本年度6月の東京都教育委員会による「読書活動推進の具体的な取組みの状況の調査」によると、「他校種の学校を訪問して読み聞かせ」を「校内の一部で実施」している学校は小・中・高とも2%、「幼稚園や保育園を訪問して読み聞かせ」をしている学校は小・中で4%にすぎない。しかし異校種の学校が連携して、異年齢の児童・生徒相互による読み聞かせ等を設定することは、自己の読書の世界から年齢の違う他者の読書の世界をつなぐことにより、互いの読書意欲を刺激し合うことになり、読書意欲が高まるものと考えられる。つまり、年長者は相手の立場に立って選書を工夫して表現の技能を磨き、読み聞かせをする体験を通して喜んでもらえた充実感を得ることができる。また、年少者は読み聞かせをしてもらうことにより、親近感をもちつつ音読の楽しさを味わい、本を通して世界が広がる満足感が得られると考える。異年齢の児童・生徒が、相手を意識した読書活動を行うことで、相互に読書意欲が刺激され、縦の人間関係が構築され、好ましい読書形成を促し、読書の世界が広がるのが期待できる。

#### 図書館ボランティアとの連携

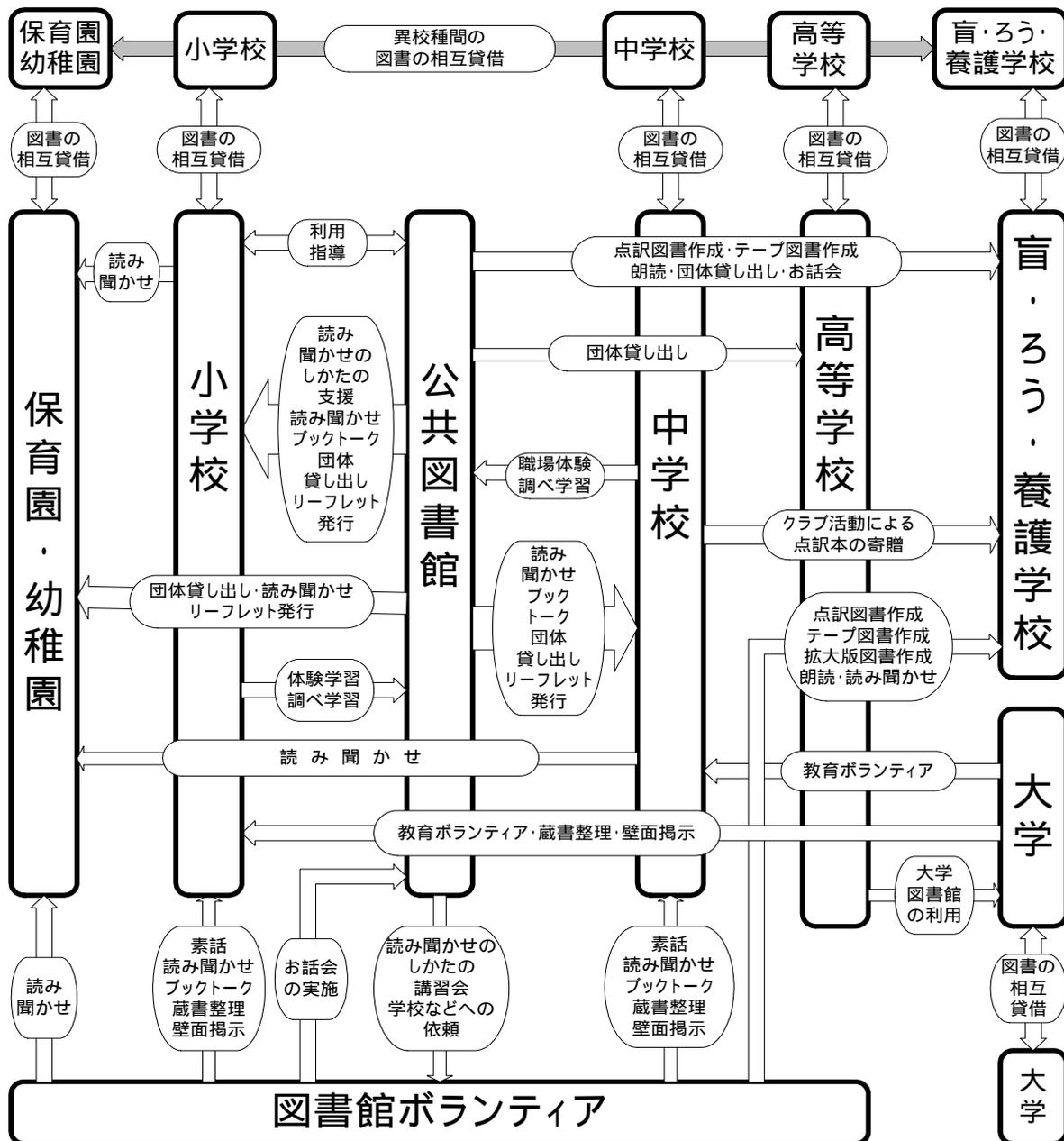
小学校や中学校において、図書館ボランティア等との連携としては、書架の整理や蔵書管理、読み聞かせ等の活動が多く見られる。こうした活動は、子どもの読書活動を側面から支えてくれる重要なものである。図書館ボランティア等の中には、図書に関する専門的知識や技能をもつ人もいて、児童・生徒とは違った角度から読書への助言を行うことができ、本への興味・関心を促すことにつながっている。

図書館ボランティアとの連携においては、学校の教育方針及び学校図書館の運営方針について共通理解をもち、協力して学校図書館の活用や読書活動の推進を行うことによって、館内の整備等、読書環境が整えられたり、読み聞かせ等の読書活動が定着したりし、児童・生徒の読書意欲が一層高まると考える。

(2) 現在実践されている各校種と公共図書館やボランティアとの連携

現状での連携の全体像をつかみやすくするために、現在、各校種で実践されている活動を明らかにして関連図にまとめた。(図1) 各種調査をみると、連携がもっとも緊密に行われているのは、小学校や中学校へ公共図書館が本を貸し出すケースである。多くの公共図書館では学校向けにリーフレット等を配布しており、学校に出向いて行う読み聞かせやブックトーク等の依頼にも応じている。図書館ボランティアによる読書環境の整備や読み聞かせは、児童・生徒の読書活動を側面から支えている。点字図書作成等の活動は盲学校にとって大きな支援である。学校間や異校種間の図書の相互貸借はあまり行われていないのが現状であるが、「中高連携」「高大連携」等の流れの中で、学校図書館相互のネットワークも行われつつある。

図1 現在実践されている  
各校種と公共図書館や図書館ボランティアとの連携



### (3) 連携の効果的な進め方と配慮事項

学校図書館が実際に連携して活動を行うに際し、公共図書館との連携、異校種との連携、図書館ボランティアとの連携の3点から、具体的な進め方と配慮すべき事柄について一覧表を作成した。連携を行う際に共通して大切なことは、目的、内容を明確にもち、事前連絡を十分に行うことである。特に、学校教育の中での活動のねらいを明確に示し、ねらいに沿った活動方法等、共通理解を図って取り組むこと、相互に有益な教育効果が得られるようにすることが必要である。

	目的	内容	具体的な進め方	配慮事項
公共図書館との連携	読書活動の支援	お話し会 読み聞かせ ストーリーテリング ブックトーク 等	公共図書館に連絡を取り、打ち合わせをする。(日時、場所、学年、人数等) 目的・本の種類等の共通理解を図る。 お話し会を開く。(同時にブックリストの配布や団体貸し出しを受けるのも効果的である。) 児童・生徒の反応、感想等を連絡する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自校の指導計画、学習内容を把握し、日程に余裕をもって計画的に進める。</li> <li>・公共図書館への連絡は早めに行う。</li> <li>・ボランティア団体を紹介されることもある。</li> <li>・基本的な利用の仕方、公共図書館でのマナーは事前に学校で指導する。</li> <li>・一学級規模の児童・生徒に同時に同じ本や同じテーマについての資料を揃えることは難しい。必要な資料を揃えるには、公共図書館との十分な連絡が必要である。</li> <li>・終わった後で、使った本や資料の利用度、有効性を公共図書館に連絡する。</li> <li>・役立った本や資料は、自校での選書の際にも参考にして蔵書の充実に役立てる。</li> <li>・図書館の利用指導を行い、日常的な活用を図る。</li> </ul>
	読書活動、学習活動の充実	調べ学習 テーマ学習 課題研究 等	公共図書館に連絡を取り、打ち合わせをする。(学年、課題、人数、学習内容、スケジュール、使用プリント、図書リストの有無、団体貸し出し希望の有無) 公共図書館のレファレンスサービスや団体貸し出しを利用し学習活動を進める。 学習成果、資料の利用状況を公共図書館に連絡する。	
異校種との連携	読書活動の充実	園児・低学年児童への読み聞かせ お話し会 等	相手校に連絡を取り、打ち合わせをする。(学年、人数、読み聞かせを受ける側の読書の実態、選書、活動内容、時間、場所、グループ構成、教師のかかり方) 連携の目的を明確にし、共通理解を図る。 読み聞かせ等をする側は、児童・生徒に相手意識を明確にもたせて準備する。 読み聞かせ、お話し会をする。 成果と課題を出し合い、次回の活動に生かす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一方だけの目的でなく互いの目的が達成されるよう、担当者同士が十分に打ち合わせをする。</li> <li>・年齢が上の学校が計画を立てた方が進めやすい。</li> <li>・相手の年齢や読書傾向に考慮して選書をし、事前に教師間で共通理解をしておく。</li> <li>・子ども同士の交流を大切にし、ふれあいの時間をもつ。</li> <li>・担当者は、継続的に連絡を取り合い、次回につなげ継続的な活動としていく。</li> </ul>
図書館ボランティアとの連携	読書活動の支援	お話し会 読み聞かせ ストーリーテリング 等	図書館ボランティア等(保護者を含む)に連絡し、打ち合わせをする。(目的、内容、日時、場所、人数、学年) 学習活動としてのねらいを確認する。 お話し会を開く。 児童・生徒の感想、反省を伝え、次の活動に生かす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協力を依頼するボランティアの活動内容について、事前に把握しておく。</li> <li>・活動の目的に応じ、日程などの具体的な活動内容を事前に打ち合わせる。</li> <li>・学校内で知り得た児童・生徒、職員等のプライバシーを守ることを確認する。</li> <li>・学校の担当者と、ボランティアのまとめ役を決める。</li> <li>・学校側の担当者は打ち合わせを定期的に行い互いの共通理解を図るとともに、校内の教職員との連絡・調整をする。</li> <li>・ボランティア日誌や連絡ノートを作り、常に連絡を取り合う。ボランティアからは、その日の出来事や質問、連絡事項を書いてもらう。学校側の担当者は、お願いしたいことや、児童・生徒・教職員の反応や感想などを伝える。</li> <li>・問題点は率直に出し合い、話し合いで解決していく。学校側としてできないことは、はっきりと断る。</li> <li>・お話し会等には教員も参加し、ボランティアにお任せしたままにはしない。</li> <li>・児童・生徒、学校側が感謝の気持ちで接することが大切である。</li> </ul>
	学校図書館の充実	図書館の整備 等	図書館ボランティア等(保護者を含む)に連絡をする。 募集に際しては、学校教育活動の目的、意図を明確に伝え、了承を得る。 活動内容、範囲、期間、時間、場所等について打ち合わせをする。 打ち合わせは定期的に行い、互いの共通理解を図る。	

(3) 実証授業

単元名 「お話のプレゼントをしよう」(総合的な学習の時間 小学校第4学年)

単元のねらい

- ・幼稚園児への読み聞かせ活動を通して、本の楽しさを味わう。
- ・幼稚園児に本の楽しさを知らせるための手段や方法を見付け、読み聞かせの工夫をする。

展開 (10時間扱い)

	活 動 内 容	支援 評価規準*留意点 (育てたい力)
課 題 を つ か む	幼稚園児と遊ぼう 1時間 ・4年生は6人ずつのグループで、幼稚園児に楽しんでもらう遊びの場を設定する。(リレー、折紙教室等)  ・幼稚園児に自由に遊びの場を選んでもらう。 ・幼稚園児と一緒に遊ぶ。 「さあ、いっしょに遊ぼう」	* 小学校に併設されている区立幼稚園と交流をする。 * 遊びのグループは、生活班を活用し、6人ずつ全6グループを編成する。 読み聞かせをする年長児と親しくなるために簡単な集団遊びを体験させる。 自分から進んで幼稚園児とかかわっている。 (活動の意欲)
	幼稚園児にお話のプレゼントを考えよう 1時間 ・幼稚園児との遊びを振り返る。 ・読み聞かせのために、3人ずつのグループをつくる。 ・本の楽しさを伝える活動に取り組む計画を話し合う。 ・「お話のプレゼントをしよう」の計画を学習カードにまとめる。	課題解決のための方法や考えを整理するために学習カードを用意する。 * 読み聞かせのグループは、前時のグループを基に男女混合で12グループに分ける 経験を基に課題を考えている。(課題設定力) 課題を追究するための計画を立てる。
課 題 に む か う	読み聞かせのコツを教えてもらおう 2時間 ・区立図書館員の読み聞かせを聞く。 ・読み聞かせの技法を教えていただく。  ・絵本の読み聞かせに挑戦する。 ・図書館員から学んだことを学習カードにまとめる。	* 区立図書館員に来ていただくために、事前に、ねらい、場所、人数などの打ち合わせをする。また、区立図書館長宛てに出張依頼を送付する。 読み聞かせの方法をつかんでいる。 (課題追究力)
	読み聞かせの計画を立てよう 2時間 ・幼稚園児に読み聞かせるのにふさわしい本を一人一冊ずつ学校図書館の中で探す。 ・グループで相談して、一冊の本にする。 ・選んだ本をそれぞれが読み、話の内容をつかむ。 ・話の楽しさを伝えるための方法や分担を話し合う。	絵本を選ぶ手がかりとして、図書館員から学んだこと(絵がはっきりしている・季節に合っているなど)を参考にするように助言する。 各グループの活動内容や工夫を掲示板に貼り、情報交換ができるようにする。 幼稚園児に楽しんでもらえる本を学校図書館の中から選び出している。(情報活用力)
6 時 間	お話の練習をしよう 2時間 ・話の内容が伝わるように工夫して、読み聞かせの練習をする。 ・二つのグループで互いに読み聞かせをして、相手のグループの優れている点や改善点を伝え合う。	各グループの読み聞かせを、相互評価や教師の励まして自信がもてるようにする。 話の楽しさを伝える工夫をグループで話し合い、練習する。(表現力) 自分たちの読み聞かせが、相手に伝わるかを確かめ修正している。(生活に生かす力)
	幼稚園児に本のおもしろさを伝えよう 1時間 ・4年生が幼稚園ホールに出向き、はじめのあいさつをして、今日の活動を確かめる。 ・4年生がグループごとに本を紹介する。 ・4年生と幼稚園児がグループに分かれ、幼稚園内の各グループが設定した読み聞かせの場所に移動する。 	

課題を生かす	<ul style="list-style-type: none"> <li>・互いに自己紹介をする。</li> <li>・4年生が自分たちの用意した絵本の読み聞かせを行う。</li> </ul>  <p>「どの本がいいかな？」 「読んであげるね」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4年生が幼稚園児に感想を聞く。</li> <li>・幼稚園児が4年生に読んでもらいたい本を学校図書館で一緒に探す。</li> <li>・幼稚園児が選んだ本を4年生が読んであげる。</li> <li>・幼稚園ホールに集まる。</li> <li>・今日の活動を振り返る。</li> <li>・終わりのあいさつをする</li> </ul>	<p>話を聞く幼稚園児の様子をつかんでいる。 (コミュニケーション能力) 幼稚園児の反応に応じて、読み聞かせを工夫している。(表現力) 読み聞かせ後、簡単なクイズを出題して、話の内容を共有させる。 幼稚園児に詳しい感想を求めないように事前に指導する。 幼稚園児の希望を聞きながら、一緒に本を探るように声をかける。 読み聞かせにふさわしい場所(幼稚園・学校図書館)を選ばせる。</p> <p>*読み聞かせ終了の音楽を流す。 読み聞かせをして、よかったことを発表している。</p> <p>*幼稚園児にも感想を発表してもらおう。</p> <p>*互いに絵本を通して、有意義な時間を共有できたことを知らせる。</p>
	<p>2時間</p> <p>活動をふりかえろう 1時間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動を振り返り、話し合う。</li> <li>・活動について、整理し、記録する。</li> <li>・読み聞かせ以外の方法を用いて、幼稚園児との交流を考える。</li> </ul>	<p>学習カードを見ながら、活動を振り返り、自己の変容や感想をカードに記入させる。 読み聞かせ以外の幼稚園児との交流の方法を考えている。(生活に生かす力)</p>

参考資料(「お話のプレゼントをしよう」で4年生児童が選んだ絵本)

・「あかずきん」	武井直紀	ミキハウス
・「14ひきのあさごはん」	いわむらかずお	童心社
・「おしゃれなおたまじゃくし」	さくらともこ	PHP研究所
・「おつきさまでたよ」	寺村輝夫	あかね書房
・「おばけのどろんどろんとぼこぼこ」	わかやまけん	ポプラ社
・「がたんたん」	やすいすえこ	ひさかたチャイルド
・「ちびねくんとでかとりくん」	こわせたまみ	金の星社
・「でこちゃん」	つのだのぶこ	PHP研究所
・「ねえおはなししてよ」	五味太郎	岩崎書店
・「ふうせんまって～」	三好碩也	金の星社
・「へんてこハウス」	たむらしげる	岩崎書店
・「ガラスのめだまときんのつなのやぎ」	白ロシア民話・田中かな子訳	福音館書店

考 察

小学生が幼稚園児に絵本の読み聞かせを行うことは、互いに本の楽しさを味わい、読書意欲を高めることにつながった。小学生は、幼稚園児に本の読み聞かせを楽しんでもらうための工夫をする中で、本のもつおもしろさや自他のよさに気付くことができた。また、この活動によって公共図書館の機能やそこで働く人を知り、足を運ぶ子も増えた。幼稚園児は、自分の好きな本を満足いくまで読んでもらえた喜びによって、本と接しようとする姿が多く見られるようになった。このような異校種との連携には、双方の意義や目的を明確にし、継続して行っていくことが大切である。そのためには、公共図書館も含めた組織づくりが今後の課題である。

## (5) 実証事例

活動名 「ボランティア(読み聞かせ)講習会」 (図書委員会 中学校)

活動のねらい

- ・地域ボランティアから「読み聞かせ」をしていただき、絵本に興味をもつ。
- ・地域ボランティアから保育園児への「読み聞かせ」の技法を学ぶ。
- ・保育園ボランティアに行き、絵本の楽しさを保育園児に広げ共有する。

活動内容とその実際

### ア 地域ボランティアとの交流

図書委員中心に35名が参加し、地域ボランティアから次の点について教わる。

青少年によるボランティア活動について ○手作り絵本の紹介 ○ボランティアの方による絵本の読み聞かせ ○指名された生徒による絵本の読み聞かせ ○参加者全員による絵本の唱和 そして「動物のちぎり絵」作り等。



#### 生徒の感想

- ・4コマ漫画にせりふをつけたり、本を読んだりして楽しかった。小さい子が喜ぶ歌や本やクイズを自分たちもやってみて中学生でも盛り上がった。 1年
- ・絵本の読み方がいろいろあるとは思わなかった。中学生になっても絵本は面白いと思いました。本が前より好きになりました。 2年
- ・(ボランティアの)話がとても面白くてあきませんでした。自分も園児にやってあげられたらいいと思いました。何か玩具や紙芝居を作って行きたいと思いました。 3年

講習会では、2時間もの間休憩もなしで熱弁をふるってくださったボランティアの迫力に魅了され、本の楽しさを実感した生徒が多かった。その楽しさを広げたいと、家に帰り、早速、弟に読み聞かせをして、喜んでもらえたと嬉しそうに語る生徒もいた。

### イ 保育園ボランティアへの参加

夏休み、生徒会の呼びかけで、近隣の6つの保育園にボランティアに行った。15日間、一人2~3日の期間で、106名の生徒が参加した。絵本の読み聞かせは自由遊びの中で園児一人一人と向き合っていた生徒が多かった。参観に行った保育園では、お昼寝前の園児への読み聞かせをしていた。園児は絵本に釘付けになり声をたてて笑っていた。読み終わった後、もう一度絵本に駆け寄り、手にとって眺めていた園児もいた。生徒は「幼児の喜ぶ顔がみられて良かった。」と感想を述べた。



### ウ 考 察

地域ボランティアから、絵本を読んでもらうことで、楽しさを共有・実感し、そのおもしろさを他の人にも伝えてあげたいという気持ちによる読書意欲の高まりがみられた。また、どうしたら園児が喜んでくれるかと工夫して練習する中で表現力も高まった。保育園での読み聞かせでは、生徒の真剣な思いが園児に伝わり、一生懸命に聞いている園児の姿があった。生徒は喜んでもらうことによって、充実感とともに読書意欲や次へのボランティア活動の意欲につながっていった。

地域ボランティアや保育園と連携・交流することによって、読書意欲・コミュニケーション能力が高まった。さらに、人と人との絆の大切さも学び、本を通して世界を広げることができたといえる。

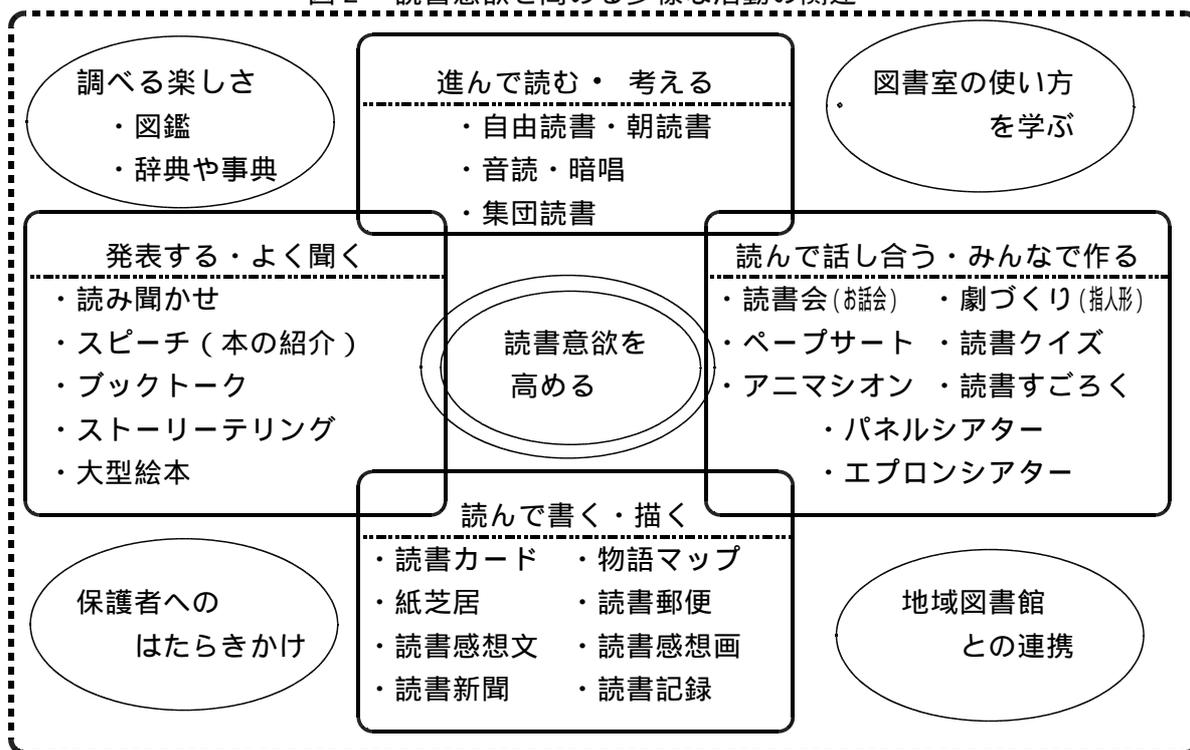
### 3 一人一人の読書意欲を高める活動の工夫

#### (1) 読書意欲を高める多様な読書活動の工夫

読書は、一人で読むことに基本をおきながらも、読みを交流する活動を組み合わせることで、読む楽しさが広がったり、読む本や読みにおける考えが広がったりするものである。つまり、個の読書活動だけでなく、集団で本の内容を楽しんだり読書のおもしろさを共有したりすることにより、児童・生徒一人一人の読書意欲を高めることができると考えた。

学校における読書活動の関連を本研究では図2のようにとらえ、それらの読書活動の効果的な取り組み方について研究を進めることにした。

図2 読書意欲を高める多様な活動の関連



読書活動の用語を次のようにとらえた

- 【エプロンシアター】 演じ手の着る胸あて式のエプロンを舞台にした人形劇。
- 【パネルシアター】 布を貼ったパネル板を舞台にし、登場人物の人形を切り取ったPペーパー（専用不織布）を貼ったりはがしたりしながらお話をすること。
- 【ペープサート】 切り抜いた絵を棒につけて動かしながらお話を進める人形劇。
- 【ストーリーテリング】 昔話や創作の物語を覚えて、本を見ずに生の声で語り聞かせること。
- 【ブックトーク】 あるテーマにしたがって、何冊かの本を順序立てて紹介する方法。
- 【物語マップ】 物語の挿絵としてのっている地図や背景のこと。マップを使って読み進めていく。
- 【読書すごろく】 本を読んだあと物語の内容をすごろくにし、内容を再び楽しんだり、紹介したりする方法。
- 【読書会】 読んだ作品について報告しあったり、テーマにしたがって作品について議論したりする会。
- 【アニメシオン】 スペインで開発された体系的な読書指導法。指定された1冊の本を読んで、アニメドール（導き手）やその他の参加者と一緒に読書ゲームを楽しみ、コミュニケーションを通して読む力を育成する。
- 【読書郵便】 読んだ作品について書いた手紙をやり取りし、紹介する方法。
- 【読書新聞】 作品からイメージしたものや感想などを記事にし、新聞にまとめ紹介したもの。

(2) 読書意欲を高める継続的な指導の工夫

読書指導を工夫し、興味・関心をもたせる多様な読書活動を取り入れながら、様々な本と出会う中で読む楽しみを広げていくことにより、読書意欲が高められると考える。そうした活動は、単に一定期間行うだけでなく、小学校から高等学校まで継続的に行うことにより効果が上がる。そして、それは生涯を通じた読書意欲となり、読書習慣の形成につながる。

そこで、本研究では、児童・生徒の読書の姿を5つに分け、これまでの読書指導の中からその読みに応じた読書活動と本の種類等を明らかにして、表にまとめた。(表2)この表を基に、それぞれの児童・生徒の読書の姿に応じて適切な指導を継続的に行うことにより、読書意欲が高まっていくと考えた。

表2 児童・生徒の読書の姿と継続的な指導の工夫 は実証授業にかかわるところ

児童・生徒の読書の姿	継続的な読書指導の手立て	出会わせたい本の種類 等
<p>【やさしい本をひとりで読む】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本を見ながら話を聞きたがる。</li> <li>・今まで読んでもらった本を、自分で読もうとする。</li> <li>・自分の知っているお話やこれまで読んだこのとのある本など、何度も何度も繰り返して読む。</li> </ul>	<p>読書時間の確保 読み聞かせ お話会・ぬいぐるみの利用 紙芝居 指人形を使って エプロンシアター 大型絵本 ペープサート パネルシアター</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容が繰り返される本</li> <li>・言葉遊びの本</li> <li>・生活に密着した本</li> <li>・動物が出てくる本</li> <li>・やさしい民話や昔話の本</li> </ul>
<p>【本を読むことに慣れる】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お話の筋をたどりながら自分でもどんどん読む。</li> <li>・読み聞かせ等を聞くことで、さらにイメージを膨らませ楽しむ。</li> <li>・本を最後まで読みとおす。</li> </ul>	<p>読書時間の確保 読み聞かせ 読書クイズ ブックトーク 読書会 読書すごろく 物語マップ ストーリーテリング パネルシアター ペープサート 読書感想文・感想画</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・似たような内容の短いストーリーの本</li> <li>・自分と主人公を重ねながら読める本</li> <li>・簡単な科学の本</li> <li>・冒険物語の本</li> </ul>
<p>【読みたい本を選んだり、いろいろな本を読もうとする】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お気に入りの作者や好みのジャンルがでてきて、進んで読書をする。</li> <li>・必ずしも適した本を選んでいない。</li> </ul>	<p>読書時間の確保 読み聞かせ 簡単なアニメーション ブックトーク 読書会 読書すごろく 物語マップ ストーリーテリング 読書記録 読書カード 読書感想文・感想画</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友情をテーマにした本</li> <li>・簡単な推理小説</li> </ul>
<p>【読みたい本を選ぶ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の興味や目的に応じて本を選択して読む。</li> <li>・様々な本をアドバイスすると、進んで読み広げる。</li> </ul>	<p>読書時間の確保 読書郵便 アニメーション ブックトーク実演 読書座談会 集団読書 読書新聞 自由読書 読書記録 読書カード 読書感想文</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文学、伝記、社会的な読みもの、科学的なもの、フィクション、ノンフィクション</li> <li>・特に感動するもの、自分に身近な問題として感じられる作品</li> </ul>
<p>【読書の楽しさを人と共有したり、読書スタイルが確立したりする】</p> <p>作品中のテーマによって自分を見つめながら読む。社会的な問題を扱った作品にも興味をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と同じ本を話題にして話し合い、本のおもしろさを共有する。</li> </ul>	<p>読書時間の確保 読書郵便 アニメーション ブックトーク実演 読書座談会 集団読書 読書新聞 自由読書 読書記録 読書カード 読書感想文</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会で話題になっている本</li> <li>・哲学書、専門書</li> </ul>

(3) 実証授業

単元名 「楽しいね！本のせかい」(国語科 小学校第2学年)

単元の目標

- [国語科] ・場面の様子を想像しながら読み、お話の楽しさを味わう。
- ・好きな絵本を探して読み、友達と紹介し合う。
- [読書活動] ・これまでに読んできた本の中から、紹介したい本を選ぶ。
- ・友達がしてくれた本の紹介を聞き、様々な本に興味をもって読む。

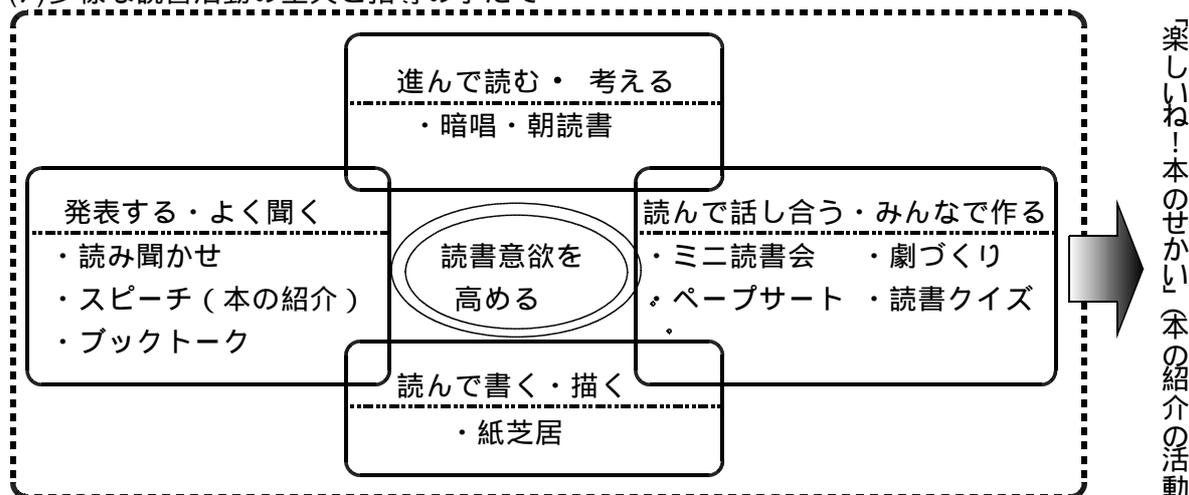
評価規準

[国語科]	関心・意欲・態度	・場面の様子を想像しながら、楽しく読もうとしている。
	話すこと・聞くこと	・知らせたいことを相手に分かるように話す。
	読むこと	・場面の様子を想像して楽しみながら読んでいる。
	言語事項	・本に出てくることばを理解して読む。

- [読書活動] ・紹介したい本を見付けることができる。
- ・本のおもしろさを自分で伝えようとする。
- ・大事なことを落とさないで、お話に興味をもって聞く。
- ・文としてのまとまりを考えながら、声に出して読む。

研究主題との関連

(ア)多様な読書活動の工夫と指導の手だて



(イ)継続的な読書活動の工夫と指導の手だて

一人一人の児童の読書への興味・関心の変化、児童の心身の成長、学級全体の状況に応じて、多様な読書活動を毎日の学級経営や学習指導の一環として継続的に行った。(表3)

個々の児童に対する手だてとしては、読書に興味をもてない子や、集中して読むことが苦手な子、読書習慣が少ない子などもおり、その子の状況に応じた指導が必要であるため、関心がある本を実態に応じて一緒に探したり、提示したり、短い時間を利用してのお話し会(読み聞かせ)を多く設定した。

単元の指導計画(5時間扱い)

	活動内容	指導事項と教師の支援	評価規準
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動のめあてを知る。</li> <li>・活動のグループ分けをする。</li> <li>・本を選ぶ。</li> </ul>	友達に本を紹介するにあたって、これまで行ってきた様々な読書活動を振り返り、紹介したい本を見付けさせる。紹介したい本を見付けている。	

2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ どのような方法で紹介するかを考える。</li> <li>・ どの本のどの場面を紹介するか選ぶ。</li> </ul> <p>[貸し出しカード・読書感想カード・所蔵リストなどの利用]</p>	<p>本を紹介する方法として、「読み聞かせ」「ブックトーク」「暗唱」「劇・ペープサート」などこれまでの読書活動を思い出させ、方法を選ぶようにする。</p> <p>自分が紹介したい場面をしぼりこむことでおもしろさが伝わることを助言する。</p> <p>自分たちが紹介したい本を選び、その本のおもしろさを伝えるためにはどうしたらよいか考えている。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループに分かれて練習する。</li> </ul> <p>[読み聞かせ・ブックトーク・ペープサート・劇・読書クイズ]</p>	<p>聞いている友達に、本の一番おもしろい場面を伝えるための工夫（読み方・見せ方・動作など）を考えるように助言する。</p> <p>一人一人がそれぞれに役割をもって活動できるようにする。グループの友達と力を合わせて取り組んでいる。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全グループを二つに分け、それぞれの中で互いに見合う。</li> <li>・ その後で感想を述べ合いカードに記入する。</li> </ul>	<p>感想のメモを書くためのカードを用意する。</p> <p>児童の初発の感想を生かし、次時の活動につながるような具体的な提示をする。</p> <p>友達にお話のしたいが分かるように声をしっかり出して話そうとしているか。</p> <p>大事なことを落とさないで、相手と相手が選んだ本に興味をもって最後まで聞いているか。</p> <p>自分の感想を率直に述べている。</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時の活動を広げ、前半と後半に分かれ、互いに本の紹介をする。</li> <li>・ 感想を述べ合い、カードに書く。</li> <li>・ 今回の活動で紹介された本の中から興味をもった本を選んで10分間読む。</li> </ul>	<p>友だちの紹介してくれた本を知り、自分でも読みたくなった本があるか、また、なぜそう思ったのかということについて全体に尋ね、今後の読書活動に広がりや深みが出るような言葉かけをする。</p> <p>今まであまり手にとったことのなかった本を読んでみることを勧めてみる。</p> <p>本のおもしろさを伝え、また感じている。</p>



『ティモシーとサラ』劇化読み聞かせ



大型絵本『にゃーご』ペープサート

各グループの発表方法と使用した本

<p>A-1：大型絵本によるペープサート        (『にゃーご』宮西達也・すず木出版)</p>	<p>B-1：“虫いろいろ”ブッククイズ        (『カブトムシ』あかね書房/『はらぺこあおむし』エリック＝カール・偕成社)</p>
<p>A-2：“子どもつながり”ブックトーク        (『おしょうさんとこぞう』大川悦生・ポプラ社/『きいちゃんのどんぐり』おおしま)</p>	<p>B-2 “ハチつながり”ブックトーク (『ハチのおかあさん』小川 宏・新日本出版/『ミツバ</p>

- たえこ・ポプラ社/『せなかをびん』小林A  
まさ子・あかね書房)
- A-3：“ディズニーつながり”ブックトーク  
(『シンデレラ』『101ぴきわんちゃん』  
『くまのプーさん』ディズニーシリーズ・  
大日本絵画)
- A-4：“白つながり”ブックトークとアンケート  
(『雪の一生』片平孝・あかね書房/『おし  
ゃべりなたまごやき』寺村輝夫・福音館  
/『雪女』小泉八雲・偕成社/『ゆでたま  
ごまーだ』神沢利子・ポプラ社)
- A-5：“虫つながり”ブックトーク  
(『あいうえおの木』レオ=レオニ・好学社  
/『かたつむり』得田之久・フレーベル館/  
『いもむしのうんち』アリス館)
- A-6：“きつねつながり”ブックトーク  
(『手ぶくろを買いに』『ごんぎつね』新美  
南吉・偕成社/『きつねがばけたランドル』  
安田浩・ひさかたチャイルド)
- A-7：“ねこつながり”ブックトーク  
(『どかんねこ』矢玉四郎・ポプラ社/『お  
みせやさん』かどのえいこ・童心社/『百  
万回生きたねこ』佐野洋子・講談社/『茂  
吉のねこ』松谷みよ子・ポプラ社)



『島ひきおに』読み聞かせ



- チのふしぎ』栗林慧・あかね書房/『アシナ  
ガバチ』小川宏・あかね書房/『かにむかし』  
木下順二・岩波書店)

- B-3：“クマつながり”ブックトーク(『ぼとん  
ぼとんはなんのおと』神沢利子・福音館/『く  
まのプーさん』大日本絵画/『アルプスのく  
ま』椋鳩十・あかね書房/『くろくまくんな  
にがきこえる?』エリック=カール・偕成社)
- B-4 “むかし話”つながりブックトーク  
(『ひばりの矢』齊藤隆介・岩崎書店/『ごん  
ぎつね』新美南吉・ポプラ社/『三年とうげ』  
李錦玉・岩崎書店/『島ひきおに』山下明生  
・偕成社)
- B-5：“ティモシーシリーズ”ブックトーク  
(『おたんじょうびのおくりもの』『パパのく  
れたおくりもの』『ティモシーとサラのパー  
ティ』芭蕉みどり・ポプラ社)
- B-6：指人形とクイズ  
(『小さいタネ』エリック=カール・偕成社)
- B-7：あらしのよる にシリーズ”ペープサート  
(『あらしのよるに』『あるはれたひに』『く  
ものきれまに』『きりのなかで』『どしゃぶ  
りのひに』『ふぶきのあした』木村裕一・  
(講談社)



『あらしのよるに』紙芝居を使ったペープサート

A：前半の活動グループ B：後半の活動グループ

## 考 察

教科学習や学級活動などの中で、表3に示した継続的な読書活動を計画し、実践してきたことにより、児童の読書意欲が高まり、読書習慣が日々の生活により形で根付きつつある。今回、友達に本を紹介をするという目的意識をもって読書活動を行ったことで、児童一人一人がこれまでの読書活動によって得た楽しさをさらに広げ、本に対する興味・関心を深める機会となった。また、本を紹介する活動を友達に見てもらって喜んでもらえたことで、児童自身が、これまでの読書活動を肯定的にとらえることができ、本を読むことがさらに好きになり、自分の読書に自信を付けたと感じている。今後の読書活動にも、新たな展開が期待できる。

読書意欲を高めるには、多様な手だてを継続的・計画的に進めることが大切である。そのためにも、児童が読んでいる本を常に把握し、その子に合った本は何かを気にかけておき、時機を逃さずに適切な読書のアドバイスを行うことが必要である。



## 資 料

### 東京都子ども読書活動推進計画

- ・学校の役割
  - 学校においては、幼稚園、小、中、高等学校等の各学校段階に応じて、子どもが読書に親しむ態度を育成し、読書習慣を形成するとともに、学校図書館を計画的に利用し、子どもの主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実することが大切です。
- ・学校における読書活動の推進
  - ア 読書時間の確保      イ 読書指導の充実
  - ウ 各教科、特別活動、総合的な学習の時間等における読書活動の充実
    - (ア)各教科、特別活動、総合的な学習の時間における学校図書館の利用
    - (イ)学校図書館及び公立図書館の利用指導の充実
    - (ウ)図書委員会の活動の充実
  - エ 子どもによる他校種の学校、幼稚園及び保育園との連携      オ 幼児期における読書の充実
  - カ 障害に配慮した読書活動の充実      キ 学校図書館の利用を充実していくための人的配置等
  - ク 教職員の共通理解の確立と校内研修の充実、読書指導推進体制の確立      ケ 家庭への啓発
- ・学校図書館の役割
  - 学校図書館は「読書センター」としての役割と「学習情報センター」としての役割を担っています。そのため、子どもの多様な興味や関心にこたえるとともに、知的な刺激を与えるきっかけとなるような魅力的な本を整備し、「読書センター」としての機能を充実することや、調べ学習等を支えていく「学習情報センター」としての機能を充実することが必要です。
- ・学校図書館の計画的な整備・充実
  - ア 図書資料の整備・充実      イ 調査に基づいた学校図書館整備
  - ウ 障害のある子どもの読書に対する学校図書館整備      エ 学校図書館の情報化の検討

### 読書活動及び学校図書館における関係法令、基準等

- ・学校図書館法（昭和28年法律第185号）
- ・学校図書館基準（昭和34年文部省設定）
- ・子どもの読書活動の推進に関する法律（平成13年12月12日法律第154号）
- ・学校図書館憲章（第42回全国学校図書館協議会 採択）
- ・学校図書館図書標準（平成5年文部省設定）

### 学習指導要領に示された内容

- ・学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童の主体的、意欲的な学習活動を充実すること（小学校）
- ・学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、生徒の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実すること（中学校）（高等学校）
- ・学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童又は生徒の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実すること（盲・ろう・養護学校）

東京都公立学校における読書調査の一部（平成15年6月 2261校実施）  
読書と学校図書館の利用状況

単位は%

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
一ヶ月間の未読者の割合	9.2	5.9	5.2	6.4	8.9	12.8	28.9	36.3	40.4	54.7	55.1	51.8
一ヶ月の平均読書冊数(冊数)	6.1	9.1	8.2	6.4	4.4	3.4	2.0	1.7	1.4	1.4	1.4	1.5
「読書が好き」と答えた割合	74.4	71.6	66.1	56.6	47.9	38.0	27.6	25.1	26.8	28.8	29.5	31.7
一ヶ月の学校図書館の利用割合	47.7	62.5	62.7	61.6	57.9	53.3	30.3	24.8	21.8	17.7	19.2	24.9

### 読書活動推進の具体的な取り組み状況

単位は%

	朝の読書時間			教師や児童生徒による読み聞かせ			学級活動における読書会		
	小	中	高	小	中	高	小	中	高
全校で実施	49	30	1	30	2	1	15	12	10
校内の一部で実施	29	26	6	67	30	14	32	18	15
実施していない	22	44	93	3	68	85	53	70	75

## 研究の成果と課題

### 1 成 果

- ・学校図書館の利用指導とともに、資料・情報の活用指導が計画的、継続的に行えるよう、小学校・中学校・高等学校にわたる学校図書館利用計画を作成できた。
- ・資料・情報活用能力を高めるため、学校図書館利用計画に基づいた教科学習の指導を研究、開発した。
- ・学校図書館利用計画に基づいた図書資料を選び、計画的に図書館の利用指導を行うことで、児童・生徒の資料・情報活用能力が高められた。
- ・公共図書館・異校種・図書館ボランティアとの連携による活動と連携の効果的な進め方について図表にまとめ、それを利用することで、目的に応じた効果的な連携先と方法を選び、学習活動に生かすことができた。
- ・公共図書館や図書館ボランティアによる読書活動の支援を受け、更に異校種間との連携をすることにより、読み聞かせ等の読書活動を行う際の相手意識が明確になり、児童・生徒の読書意欲が高められた。
- ・積極的に連携をして読書活動を行ったことにより、児童・生徒と園児、図書館司書、ボランティアとの心の交流も生まれた。児童の公共図書館利用も増えつつある。
- ・児童・生徒の読書の姿に応じた多様な読書活動と継続的な読書指導及びその時期の児童・生徒に有効な本の種類を表にまとめた。
- ・多様な読書活動を組み合わせて行うことで、児童・生徒の読書意欲が高まった。

### 2 課 題

- ・作成した学校図書館利用計画をさらに精選し、使いやすいものにする必要がある。
- ・教科等における資料・情報活用能力を明確にする必要がある。
- ・資料・情報活用指導の学習が継続的・計画的に行えるよう、利用計画に基づいた学校図書館の環境整備を行う必要がある。
- ・異校種間で連携し交流活動を行う際、読み聞かせ等の読書活動をする側、受ける側それぞれの意義と目的をさらに明確にしていく必要がある。
- ・連携は、計画的継続的に行う必要があり、担当者の役割は大きい。連携を進める方法と担当者の役割についてさらに検討する必要がある。
- ・一人一人の児童・生徒に合う支援を行うためには、さらに、児童・生徒の読書の実態把握の方法を工夫し、その実態に合った選書や読書活動の工夫を行う必要がある。
- ・自主的な読書活動の習慣付けには短期的な取り組みがすぐに効果を表すというわけではなく、継続的な取り組みが欠くことのできないものである。これからも児童・生徒の変容を長期的な視点で見続け分析していく必要がある。

平成15年度教育研究員研究報告書

東京都教育委員会印刷物登録  
平成15年度 第31号

平成16年1月21日

編集・発行 東京都教職員研修センター  
所在地 東京都目黒区目黒1-1-14  
電話番号 03-5434-1974

印刷会社名 勝田印刷株式会社